

平成24年度宮古群島病害虫発生予報第11号(2月予報)

I 2月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	50	40	40
平年並	30	30	30
低い(少ない)	20	30	30

(平成25年1月25日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島(宮古島)	18.3	20.9	16.2	141.3	82.6

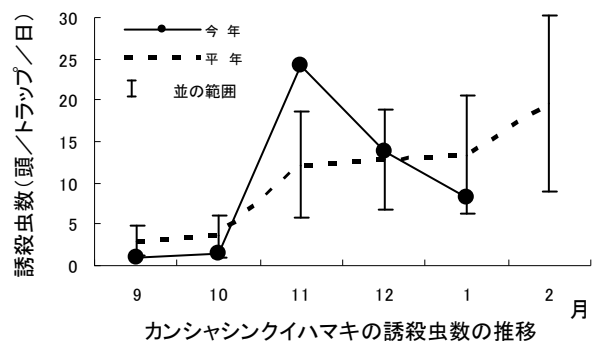
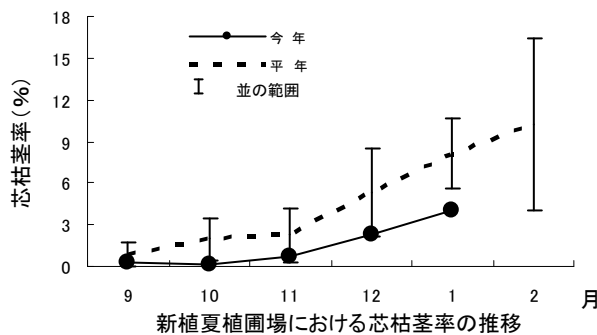
(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

II 1月の発生予報および防除上の注意事項

1 さとうきび

○ カンシャシクイハマキの防除対策

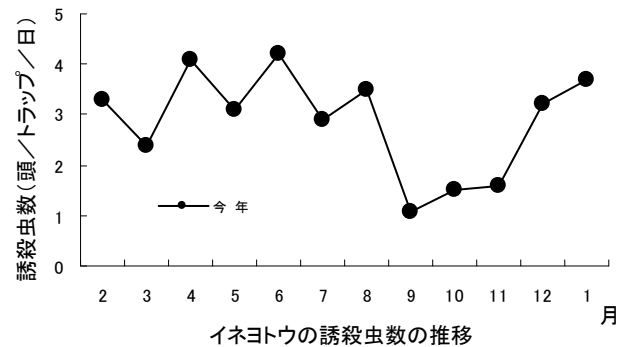
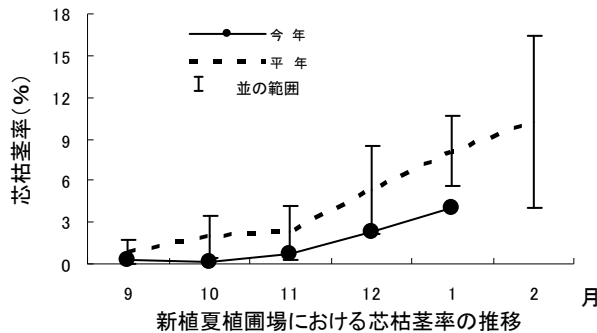
- a 1月中旬の調査の結果、新植夏植圃場における芯枯茎率は、4.0%(前年10.3%、平年8.1%)と平年より低かった。
- b 1月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモンによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は、8.38頭(前年22.6頭、平年13.4頭)と平年よりやや少なかった。



<防除上注意すべき事項>

- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- c 圃場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- d 植付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- e 平成24年度病害虫発生予察技術情報第1号参照(平成24年4月5日付)。

- イネヨトウの防除対策
 - a 1月中旬の調査の結果、新植夏植圃場における芯枯茎率は、4.0%(前年10.3%、平年8.1%)と平年より低かった。
 - b 1月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は3.7頭であった。
 - c 与那国島において、イネヨトウの被害が多発した際の誘殺虫数は2頭以上であった。



<防除上注意すべき事項>

- a カンシャシンクイハマキの防除上注意すべき事項を参照。
 - b 平成24年度病害虫発生予察技術情報第5号(平成24年9月21日付)参照。
- ヨガネムシ類幼虫(アオドウガネ・ケブカアカチャコガネ)の防除対策
 - a 防除員からの報告によると、一部圃場でヨガネムシ類による被害がみられた。
 - b 立枯れがみられる圃場では早期に収穫し、収穫後は速やかに耕耘して、幼虫密度の低減を図る。
 - 収穫後の圃場におけるカンシャコバナネナガカメムシ(ガイダー)の防除対策
 - a 収穫の際に地上に落下した卵や越冬成虫は地表や株元に残り、収穫後の株から伸びた幼茎などで生育する。
 - b 卵の死亡率を高め、第1世代の発生を抑制するため、収穫後は全面および畦間の耕耘を速やかに行う。

2 マンゴー

- 炭疽病の防除対策
 - a 本病は、出雷前の芽に潜在感染するので、着果後の被害軽減のため、この時期からの予防に努める。
 - b 不要な新梢や罹病した枝葉は発生源となるため、ビニール袋に入れるなどして施設外に持ち出し処分する。
 - c 出蕾がみられる園では、花芽に対して薬害の少ない薬剤を選定する。
- チャノキイロアザミウマの防除対策
 - a 1月下旬の調査の結果、一部圃場で発生がみられた。
 - b 開花期以降は本種が増加する可能性があるため、早期発見、早期防除に努める。
 - c 混合花の新葉や不用な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に摘葉する。
 - d 発生源となる施設内外の雑草を除去する。

3 かぼちゃ

- 細菌性病害の防除対策
 - a 強風による傷や降雨は、斑点細菌病や葉柄腐敗症などの発生を助長する。
 - b 防風垣は次期作まで残し、予防散布と初期防除に努める。

4 にながり(施設)

- うどんこ病の防除対策
 - a 発生源となる不要な老葉・下葉を除去し、透光通風をよくする。
 - b 除去した葉は圃場内に放置せず、ビニール袋等に入れるなどして持ち出し処分する。

5 とうがん(施設)

- ミナミキイロアザミウマの防除対策
 - a 1月中旬の調査の結果、葉あたり虫数は0頭(前年0頭、例年0.1頭未満)で、つる先の虫数は0.2頭であった。
 - b 発生源となる圃場内外の雑草を除去する。
 - c 持ち出し時に圃場内の虫の分布を広げてしまう危険があることから、除去した寄主植物はビニール袋に入れるなどして、施設外に持ち出し処分する。